広報 さわおとのもり

平成２８年　５月　　**第 19 号**
発　　行：特定非営利活動法人さわおとの森
発行責任者：理事長　清　野　精　維
編　集　：広報担当　髙橋正藏・上総麻利・行本未佳
〒981-0123　宮城郡利府町沢乙字欠下東 18 番２
Tel：022(767)4338　　Fax：022(767)4347
ホームページアドレス：　http://sawaoto.jp

５月初旬、久々の里山歩きに興じた。
気まぐれの小さな旅。準備不足が否めず、傍からはきっと珍妙な出で立ちの人と映っただろう。

日向のたたずまい

里山には桃源郷の趣がある
眩（まぶ）しいほどの若葉が目の前を覆い尽し
山吹や山ツツジの花々が彩りを添えている
頬をくすぐる風のそよぎと鳥たちのささやき
どこか懐かしい土の匂いと日向（ひなた）の心地好さ
遊歩道の傍らには蕗（ふき）が茂り
桜の花片がその葉の上にはらりと舞い落ちている
鷹揚（おうよう）な里山のふところが目下の糧（かて）と向き合う鋭気を供給する
内なるときめきが飄々（ひょうひょう）としてこれまでの来し方をめぐると
一抹の陰りや忸怩（じぐじ）たる思いが彼方へと追いやられ
清々と、身も心も再生のとき
足取り軽く「さくらの湯」行きとなった

あのねの森園長・髙橋正藏

自己研鑽と自己啓発

「人は城　人は石垣　人は堀　情けは味方　仇は敵」・・・これは、武田信玄の『甲陽軍鑑』の中にある勝利の礎からの言葉である。トップリーダーの力量として、人材を見分ける能力が第一に挙げられる。つまり、部下（職員）の人柄や才能、あるいは意欲（やる気）、物の考え方、心掛け・深慮遠謀の程度などを見極めることが重要であると説いているのである。このことは、現代の組織にも通じ、人材育成、ひいては研修の必要性にも繋がることである。

１．研修とは

①研修の目的

組織が求める職員の資質と実際に配置されている職員の資質との差を縮小し、組織が描いている職員像まで持っていくことである。そして、その具体的な事項が目標である。

実際の仕事は、諸制度や規程、規則などを知っていれば十分というわけにはいかない。仕事の段取り、具体的な仕事の進め方、組織の基本である「報告・連絡・相談」のやり方等を知らなければならない。

②人材育成について

人材育成を経営学的に言うと、「組織が戦略を達成するため、あるいは組織・事業を存続させるために持っていてほしい職員のスキル・能力を獲得させることであり、そのための学習を促進すること」と、されている。

２．自己研鑽と自己啓発

①自分の技術や知識を磨くこと・・・自己研鑽

自分がすでに持っている技術を高めたり、知識を深めたりすること。自己研鑽を積み上げることによって、自分の得意分野を伸ばしたり、苦手分野を克服したりすることができる。

②自己啓発の要点

自己啓発も、スキルアップなど自分をより良くするという点では自己研鑽と違いはない。自己啓発の肝は、その要点が意識改革に置かれているかどうかにある。何のためにスキルアップをめざすのか、なぜ行動を改善するのかーといった意識を持つように努力すること、これが自己啓発である。

③自己研鑽と自己啓発の相乗効果

自己啓発は意識を磨き、自己研鑽は技術を磨くもの。どちらが欠けても効果は薄れてしまう。共通の目標や目的に向かうという意味で、意識と視点を変えられる自己啓発はモチベーションに影響を与え、自己研鑽のスキル向上でその後押しができる。この２つの違いを理解し、相乗効果を最大限に生かすことが、成長の鍵となる。（文責・髙橋）

３．人材育成研修計画

２８年度の「法人さわおとの森」の人材育成研修計画（予定）は次のとおりである。

開催月	テ　ー　マ	講　師　等	備　考
４月	自閉症の子どもとの関わり方・言葉の伝え方	高橋みかわ氏	グループワーク
５月	障害児通所支援の運用について	高橋・繁園長	
６月	言語・摂食に関すること	鈴木和子・小高美咲	言語聴覚士
７月	適応能力の発達について	齋藤園長	
９月	わらべ歌・手遊び	伊丹園長	
１１月	職員の健康管理及び疾患に関すること	法人内看護師	
１月	作業療法に関すること	工藤 or 高橋ＯＴ	
２月	未定	外部専門家	

４月早々、郡山での研修会に臨んだ。テーマは「発達障がいの支援の極意～プロフェッショナルに学ぶ～」。講師は著名な服巻（はらまき）智子氏で、内容は自閉症スペクトラム障害（ＡＳＤ）への関わりについて、実践に即した専門的な内容と現場に生かせる方法を知る機会となった。受講した３人から感想を寄稿してもらった。

見通しを立てて支援する

研修の中で、自閉症スペクトラムは、「完全治癒は難しいが、彼らの人生の質を変え、より良い社会人として育てることができる」とありました。現在、私は未就学児を主に担当していますが、一人ひとりの就学してからのこと、社会人になってからのことを見据えて、今から「何が必要か」を考えながら支援していく必要があると感じました。

自閉症は、早期療育と周囲の理解によって軽度にも重度にもなるという話もあり、改めて、子どもたちの時間がより有意義な時間となるよう、活動の流れや関わり方を日々振り返りながら、次の支援へ繋げていこうと思いました。

あかいしの森・佐藤優希

生涯にわたる支援を考える

「小さいころは、手がかかったほうがいいんだよ。」

まだ出産も育児も経験したこともない私が、保育所勤務の時に耳にした言葉です。経験の浅かった私にはよく分からない言葉でしたが、その何年か後、私も実際に子育てをすることで少しずつ納得、そしてこちらの法人に勤務することになり、様々な研修での学び・日々の支援を通して、小さいころからいっぱい関わってもらうことの大切さを実感してきたところでした。

そんな時、この研修「早期発見・早期療育から始まる生涯にわたる支援」に心を動かされ、参加しました。講師・服巻智子さんから、これまでの多くのケースのお話、佐賀市で取り組んでいる超早期診断からの早期療育、実際の動画、そして発達障害を持つ中高生の言葉から、早期教育並びにその後のトリートメントによって、生きやすくなっている人がたくさんいるということが分かりました。

今後、また服巻先生のお話を聞く機会があった際には、早期にどんな支援をしていったことで成果が出たのか、その具体的な支援方法をお聞きしたいです。

あかいしの森・門脇玲子

日々自己研鑽

私たちが会場に着いた時には広い会場が満席に近い状態で、福島県における発達障害支援の熱が感じられました。

講演の中で、脳の可塑性という医学的な見地から早期療育の重要性が語られ、自分が関わっている子どもたちの一日一日がいかに大切か、改めて、責任の重さを考えさせられました。また、最近のＡＳＤ治療教育においては、効果が証明される必要があるという話は自分にとって衝撃でした。「一生懸命やっている」だけでは自己満足に過ぎない。子どもが確かに成長していかなければ・・・。

向上心を持って勉強し、少しでも子どもたちの成長に貢献できる支援をしていきたいと思いました。

あかいしの森・今村しげ子

自閉症スペクトラム障害とは

スペクトラムというのは連続体という意味である。つまり、自閉症に関連する障害をひとまとめにして捉えるという考え方。例えば、知的な遅れが伴う自閉症、知的な遅れが伴わない高機能自閉症、言葉の遅れが見られないアスペルガー症候群などをひとまとめにして、自閉症スペクトラムと呼ぶ。少し前までは広汎性発達障害（ＰＤＤ）と呼ばれていた。この障害の中に自閉症も高機能自閉症もアスペルガー症候群も含まれていた。この広汎性発達障害が自閉症スペクトラムに名称を改めるようになった。しかし、まだすべて自閉症スペクトラムで語られることは多くはなく、アスペルガー症候群という言葉も診断名もまだ使われているし、広汎性発達障害という言葉も一般によく使われている。

「春秋に富む！」　それって老人のこと、それとも若者のこと？

物の本によれば、「春秋」とは、春と秋とで「年月」とか、「年齢」を表すこととされており、「春秋を経る」と言えば、年月が経つことであり、「春秋盛んなり」と言えば、働き盛りの壮年ということです。さらに、「春秋高し」と言えば、老人のことを言っているとされますが、ではでは、「春秋に富む！」とはどういうことを表しているのでしょうか。年月に富んでいるというのですから、これも老人のことと思われがちですが、これは実は若者のことであって、この場合の春秋は、すでに経験した年月ではなく、これからやってくる年月を指しています。つまり、年が若ければ若いほど将来性に富んでいると言っているのです。

我がさわおとの森は今年でようやく満１０歳。人生で言えば、今、少年期真只中というところ。組織も施設も未熟で未完成です。これからの年月、研修と実務で研鑽を積み、福祉社会の中で、“信”を獲得して、保育・療育にかかる要望に少しでも多く応えられる法人組織体となっていくよう、そしてまた、種々の事態にも機能的に対応できる施設群を構築していくよう、広大な夢を持っていますが、それはそれ、大いなる春秋に富むさわおとの森でありますので、達成していくであろうことは、少しの疑いもないところです。

理事長　清野精維

賛助会費のお願い

例年、多くの皆様方より温かいご支援をいただき、心よりの御礼を申し上げます。

今年もまた、安定した事業を推進していくため、引き続き皆様方のお力添えを賜りますようお願い（別紙にて）申し上げます。

会費の納入は、同封の振込用紙をご利用いただきますようご案内します。また、すでに納入していただいた方につきましては、改めて御礼申し上げます。

なお、別紙２には昨年度の賛助会員および寄付者名を掲載させていただきましたので、お目通し置きください。

特定非営利活動法人さわおとの森・総務担当